

親鸞思想を、現代社会に生きる哲学として考究する、

壮大にして緻密な研究の成果が、今ここに結実。

法藏館

信楽峻磨著作集

全10巻



著作集の刊行にあたって

今日の真宗学における信理解の最大の問題は、親鸞聖人没後、本願寺第三代の覚如、その長子存覚、そして第八代の蓮如が捉えた信理解が、親鸞聖人の信理解と大きく齟齬しているにもかかわらず、それらを同一視し、それを重層して解釈しているという点である。そのことは、かつての近世封建体制下における、教団内宗学の方法論にもとづくもので、そこでは親鸞聖人と、覚如、存覚、蓮如は、まったく同じ信心、同じ教義理解といわざるをえなかったわけである。

かくして、今日における空華学派、石泉学派、さらには大谷派の高倉学派などの教学上の相違は、ひとえにこのような教団内事情に基因するものにはかならない。従って、真宗における信心の本義を明らかにするについては、何よりも先ず、親鸞聖人以前の浄土教理史についての研究と、親鸞聖人それ自身における信の思想についてこそ研鑽すべきであって、親鸞聖人没後の教学解釈は、すべて排除すべきであることは当然である。その点、私は真宗における信の思想をめぐって、覚如、存覚、蓮如における信の理解が、いかに親鸞聖人のそれと背反しているかについても、これをつぶさに検証したところである。

希くは今後の心ある若い学徒によって、さらにいっそうの研鑽がすすめられ、まことの親鸞聖人における信の思想の内実が、よりいっそう鮮明に開顕されるよう心より念じるところである。

二〇〇七年七月

信楽峻磨

『著作集』第一巻序文より抜粋

信楽峻磨(しがらき たかまろ)略年譜

- 一九二六年(大正一五) 九月 広島県・浄土真宗本願寺派・教円寺住職、信楽智雄・トナの次男として出生
- 一九四二年(昭和一七) 二月 浄土真宗本願寺派・得度
- 一九四五年(昭和二〇) 四月 広島県青年師範学校入学
- 一九四五年(昭和二〇) 七月 学徒徴兵、北海道旭川部隊入隊
- 一九四九年(昭和二四) 三月 龍谷大学専門部卒業
- 一九五二年(昭和二七) 三月 龍谷大学文学部卒業
- 一九五二年(昭和二七) 四月 平安高等学校教諭
- 一九五五年(昭和三〇) 三月 龍谷大学研究科真宗学専攻卒業
- 一九五八年(昭和三三) 四月 龍谷大学文学部助手
- 一九七〇年(昭和四五) 四月 龍谷大学文学部教授、大学院講義担当
- 一九七一年(昭和四六) 八月 教団改革運動開始
- 一九七五年(昭和五〇) 一月 教円寺第一八世住職
- 一九七八年(昭和五三) 九月 ハワイ大学・パークレイ仏教学院留学(一九七九年)
- 一九八一年(昭和五六) 二月 龍谷大学文学部部長(一九八五年)
- 一九八三年(昭和五八) 五月 真宗連合学会理事長(一九八四年)
- 一九八九年(平成 一) 二月 文部省学術審議員専門委員(一九九一年)
- 一九八九年(平成 一) 四月 龍谷大学学長(一九九五年)
- 一九九五年(平成 七) 三月 仏教伝道協会理事長(一九八八年)
- 一九九七年(平成 九) 三月 文学博士

卷構成

第一回配本 既刊

第一卷 『改訂 浄土教における信の研究』

3381・5 / 一五、七五〇円

親鸞思想を正しく理解するためには、客観的な教理史を明らかにする必要がある。従来の教団内宗学では、親鸞の思想を頂点として、經典である「浄土三部経」も、龍樹らの七祖の思想も、すべてが同一であると強引に説明しようとしてきた。それが、親鸞の宗教的正統性を証明するために必要な姿勢であったとしても、それを墨守していたのでは、親鸞思想の真の意義を正しく理解することは不可能である。本書は、従来の教団内宗学の強固な枠を破り、新しい親鸞理解の基礎を築いた、信楽教学の記念碑的労作。著作集として刊行するにあたって、一九七五年に刊行された『浄土教における信の研究』（永田文昌堂）を、最新の研究成果を盛りこんで大幅に加筆した。

第二・三巻 『改訂 親鸞における信の研究』上・下巻

① 3382・2 ② 3383・9 / 各一三、六五〇円

親鸞思想の特色である「唯信」の意義を鮮明に理解しようとするならば、他の思想との客観的な比較研究を避けて通ることはできない。従来の教団内宗学では、「浄土三部経」や七祖を含め、さらに、親鸞以後の覚如・存覚・蓮如などの列祖までも、すべて同一の信心として説明しようとしてきた。これにより、親鸞思想の真面目があいまいとなつてしまった。本書は、ただひたすら、親鸞に直参することを願つて、教団内宗学の厚い壁を打ち砕き、親鸞の信心の意義を学問的に究明した、歴史的な成果である。著作集として刊行するにあたって、一九九〇年に刊行された『親鸞における信の研究』（永田文昌堂）に、最新の論考を盛りこんで大幅に加筆した、信楽教学の精華。

第二回配本 既刊

第四・五巻 『歎異抄講義』I・II

④ 3384・6 ⑤ 3385・3 / 各九、四五〇円

親鸞思想が凝縮して表現されたものであると、多くの人から注目されている。

しかし、親鸞に直参し、純粹な親鸞思想を解明しようとする立場から見直してみると、『歎異抄』には、唯円の思いが数多く混在していて、そのまま親鸞の思想と受け止めることはできない。本書は、一般の常識的な『歎異抄』観を打ち破って、客観的な立場で『歎異抄』を再検討し、唯円の思いを明確に分離する作業を積み重ねることによって、『歎異抄』理解の新基軸を打ち出した、画期的労作。

第三回配本

二〇〇八年八月刊行予定

第六・七巻 『真宗教義学原論』I・II

⑥ 3386・0 ⑦ 3387・7 / 各九、四五〇円

親鸞思想を現代に拓くためには、教団の中だけで通じるような教義学ではなく、一般に通じるような、客観的に論理化された教義学が不可欠である。本書は、従来の煩瑣で難解な教義学を根底から覆し、親鸞思想の中核である信心論と行道論までもをみごとに論理化した名著。親鸞思想を、より広く論じ合うためのゆるぎない基盤が提示されたことによって、親鸞思想をより多くの人々のもとに拓くことが可能となった。

第四回配本

二〇〇九年九月刊行予定

第八・九・十巻 『尊号真像銘文講義』I・II・III

⑧ 3388・4 ⑨ 3389・1 ⑩ 3390・7 / 各予九、四五〇円

親鸞の門弟は、それぞれの道場で、名号（尊号）を掲げて本尊として礼拝した。また、真宗伝統の祖師の肖像（真像）を尊崇の念を持って掲げていた。また、それらの尊号や真像には、その徳を讃えるための銘文が書かれていた。そのように、門弟になじみのあつた尊号・真像の銘文に、親鸞自身が詳細な解説を加えたのが、『尊号真像銘文』である。親鸞は、その『尊号真像銘文』を、多くの門弟に送ることで、より深い念仏理解に到達してくれることを願つたのである。本書は、親鸞にとつて教化色の強い『尊号真像銘文』を読み解くことを通して、親鸞が門弟に最も伝えたかったこととは何かが浮かび上がってくる。教理学と教義学の両方に深い理解がある信楽教学が、その面目を發揮した深い洞察が展開される。

好評刊行中



【特色】

● 第一巻〜三巻は、『浄土教における信の研究』『親鸞における信の研究』に大幅な加筆を施し、記念碑的名著に、信楽教学の最新成果を盛り込んだ。

● 第四巻以降は、すべて講義をもとにした書下ろし原稿を収載。常に新機軸を打ち出す信楽教学の精華を収載。

● 分冊の販売を可能にし、読者の購入の便を図った。

【体裁】

A5判／上製貼ケース入／各巻平均四〇〇頁

【予定価格】

（表示価格は税込5%です）

第一巻は、一五、七五〇円、第二・三巻は、一三、六五〇円
第四〜十巻は、各九、四五〇円予定

（取扱書店印）

信楽峻磨著作集

全10巻

分売も可能です

第1巻〔 〕冊 / 第2巻〔 〕冊 / 第3巻〔 〕冊
 第4巻〔 〕冊 / 第5巻〔 〕冊 / 第6巻〔 〕冊
 第7巻〔 〕冊 / 第8巻〔 〕冊 / 第9巻〔 〕冊
 第10巻〔 〕冊

■〔 〕セット申し込みます

〒 住所

お名前

お電話



法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通島丸東入
 TEL 075-343-5656 FAX 075-371-0458
 Homepage <http://www.hozokan.co.jp>
 e-mail info@hozokan.co.jp

申込書

907163000